

さがむの国の あらいその
(相武台への旅のついでに)

1960年代から70年代にかけて、丹沢の山や谷を歩くようになり、頻繁に小田急線を利用するようになり、「相武台前」という駅があることを知った。

相模大野を過ぎると平坦な土地が広がり、小田急相模原・相武台前・座間・本厚木……と進むにつれて遠くにあった丹沢の山波が少しずつ近づいてくる。小田急線ならではのスリリングな車窓の旅を楽しめた。

その頃私は国立市に住んでいたのだから、南武線や横浜線を使うことも少なくなかった。

横浜線に乗る事を憶えたら、途中の橋本から茅ヶ崎に向かう、未電化の相模線が気になって乗って見た。

橋本を出て南へ走ると、右側(西側)の車窓には相模川沿いの開けた田園風景、左側(東側)には台地の麓の景色と、味わい深い田舎の景色を楽しむことができた。

橋本を出ると、上溝・番田・原当麻……と興味をそそる駅名が続き、その先に「相武台下」という駅があった。

小田急線の駅が「相武台前」で、相模線の駅が「相武台下」であることから推理してみた。

相武台と言われる台地があって、その下にあるのが「相武台下」。国土地理院の地形図を見れば、相模川の左岸の平坦地で、海拔50~100m前後の台地の西麓になっており、合点が行く。

ならば、「相武台前」はこの台地とどんな位置関係にあるのだろうかとなり、再び地形図を眺めてみた。

台地は、前述の様に西側の相模川、東側の境川に挟まれた広大なものであり、その中央部に流れる目久尻川が台地の先端を二つに分けている。境川の水源は津久井湖北部で、町田市を抜けて藤沢市で相模湾に落ちる。目久尻川は相武の台地から流れ出て、寒川町で相模川の本流に合する。

二つの川に挟まれた台地は、相模国と武蔵国にまたがることから、「相武台」という名になったのだろう。また「相武台前」は、目久尻川によって割れた台地の縁にあるので、台地の「前」なのだろうかと解釈(想像)して勝手な結論を出して納得していた。

長い月日が流れて2014年、この町とご縁が巡ってきた。年に一度この町の公民館で開く「寄席」のお手伝いをする事になり、今年も3月21日にこの地を訪れた。何度かこの町を訪れる内に、かつて適当な納得で片付けていた「相武台」という地名の由来への疑問が、再び首をもたげてきた。

調べ始めたらすぐに、「相武台という地名の名付け親は昭和天皇」ということがわかった。

昭和12年(1937年)に市ヶ谷にあった陸軍士官学校が、当時の高座郡座間村に移転してきた。士官学校と演習場の敷地は、座間村(ざまむら)・新磯村(あらいそむら)・麻溝村(あさみぞむら)にまたがるものであった。

昭和12年12月の卒業式は天皇陛下の行幸を得て盛大に行なわれ、この時に陛下から「相武臺」の呼称が与えられた。士官学校正門(現在の米軍キャンプ座間)に「相武臺」の石碑があり、陸軍大臣杉山元による由来の一文が記されているそうである。

古代に遡ると、相模国は「佐賀牟(さがむ)」と書かれ、古事記の中でも日本武尊の東征に登場する地とのこと。古墳時代には、相模国造(さがむのくにのみやつこ)が相模川の流域を押さえていたという情報もある。

また賀茂真淵や本居宣長らの研究資料によれば、当初は「身狭国(むさのくに)」があり、それが「身狭上国(むさかみのくに)」と「身狭下国(むさしものくに)」に別れたことから、相模国と武蔵国の成立につながったとも言われており、今となっては多説あり真説に辿り着くのは難しい様子。

いずれにせよ、古代に遡る知識が豊富な天皇陛下ならではの命名と言うことが出来る。

陸軍士官学校ができたことにより、小田急線に「士官学校前」という駅が出来た。また沿線には「通信学校」という駅もあり、相模線には「陸士前」という駅が出来た。

昭和16年に、「士官学校前」は「相武台前」に、「通信学校」は「相模大野」に、「陸士前」は「相武台下」と改称された。余談であるが、昭和15、16年頃に京浜急行でも駅名改称がいくつか行なわれている。

「軍需部前」は「按針塚(現在は安針塚)」に変わり、「横須賀軍港」は「横須賀汐留(現在の駅名は汐入)」に変

ったが、いずれも鉄道駅名から軍事施設の存在を隠すのが目的だったと聞いたことがある。

寄席を開催する公民館は「相模原市南区新磯野(あらいその)」という所にある。

「新磯野」という地名は「荒磯」を想起させる海辺の地名のように感じるので、内陸の地に何故あって「あらいそ」という地名がついたのかが気になり、これまた調べて見た。

江戸時代に遡ると、相模川の東側の岸边から高台の山頂までの東西に広がる形で、新戸村(しんどむら)と磯部村が存在した。新戸村の一部は寺社奉行の所領だったが、両村とも幕府所領・旗本所領の土地が主だった。1889年の市制町村制の施行にあたり、二つの村が合併して新磯村となった。旧村名を一文字ずつ出し合った合成地名で、「あらいそ」と読ませることになった。

誕生した新磯村は1941年に高座郡の町村合併により相模原町(のちに相模原市)の一部となった。

新磯村は相模川の左岸から広大な台地を含む広がりであったが、1941年当時は台地の上部に陸軍士官学校があった。終戦後満州からの引揚げ者などによって開墾された。

台地の上部はのちに住宅地となり、「新磯村の台地の上の野原」は「新磯野」という住居表示になった。

千葉県と同じように、「軍国日本」の時代を苦勞して生きてきた町だということがわかり、妙に親しみを感じた。

相武台周辺の町村合併の歴史

(Web「高座郡七市一町の変遷」から引用)

江戸時代の村	1867年 大政奉還	1878年 郡区町村編成	1889年 市制町村制	1941年	1955年	現在
相原村	旗本所領	相原村	相原村	相模原町	相模原市	相模原市
橋本村	旗本所領	橋本村				
小山村	幕府所領*	小山村				
清兵衛新田	幕府所領	清兵衛新田				
上矢部村	烏山藩	上矢部村	大野村			
矢部新田村	旗本所領*	矢部新田村				
淵野辺村	幕府旗本*	淵野辺村				
鵜野森村	幕府旗本	鵜野森村				
上鶴間村	幕府旗本	上鶴間村				
大島村	烏山藩	大島村	大沢村			
上九沢村	旗本所領	上九沢村				
下九沢村	旗本所領	下九沢村				
田名村	烏山藩	田名村	田名村			
上溝村	幕府旗本*	上溝村	上溝村			
下溝村	幕府所領*	下溝村	麻溝村			
当麻村(たいま)	幕府旗本寺	当麻村	(あさみぞ)			
磯部村	幕府旗本	磯部村	新磯村			
新戸村(しんど)	幕府旗本寺	新戸村	(あらいそ)			
座間村	幕府旗本	座間村	座間村		座間町	座間市
座間入谷村	幕府旗本	座間入谷村				
新田宿村	幕府旗本寺	新田宿村				
四ッ谷村	幕府旗本	四ッ谷村				
栗原村	幕府旗本	栗原村				

*印=一部烏山藩所領

以上